

# 宮崎市 2 歳児歯科健診・フッ化物塗布事業評価報告

榑山 実寿 日高 良雄 湯元 安男 竹迫 正明 田村 里美  
近藤 泰子 岡 篤子 田原 幸恵 久保田 晴美 (宮崎市保健所)

## 要旨

平成 10 年度より 2 歳児健診および健診時フッ化物塗布事業を実施し、平成 15 年度より 2 回のフッ化物塗布補助事業を追加した。今回本事業の評価を行い、更なる事業展開の参考にすることを目的としている。

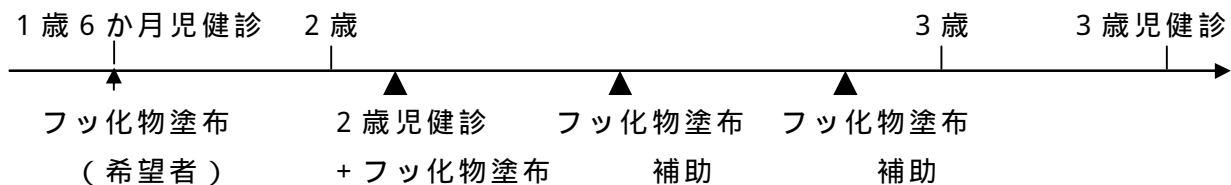
## はじめに

宮崎市では「健康みやざき市民プラン」の中で平成 24 年度までに「むし歯のない 3 歳児の割合を 70% 以上にする」目標を掲げ、歯科保健事業を展開している。近年宮崎市の 3 歳児健診時のむし歯罹患率は減少傾向にあり、その理由の 1 つに「2 歳児歯科健診・フッ化物塗布事業(下図参照)」があると考えられる。本事業が 3 歳児健診時のむし歯罹患状況に与える影響について分析を行ったので報告する。

(3 歳 6 ヶ月

(図)「宮崎市の 2 歳児歯科健診・フッ化物塗布事業の概要」

~ 7 ヶ月)



## 研究方法

### 1 分析対象

以下の条件を全て満たす 6,243 人を評価の対象とした。

条 件	理 由
1 歳 6 か月児健診 (H14~H17 年度) と 3 歳児健診 (H15~H18 年度) の両方を受診した	フッ化物塗布事業前後の口腔内状況を確認するため
1 歳 6 か月児健診時にむし歯がなかった	フッ化物塗布によるむし歯予防効果を評価するため
1 歳 6 か月児健診時にフッ化物塗布を受けた	フッ化物塗布事業前のフッ化物塗布回数を揃えるため

### 2 分析方法

2 歳児歯科健診・フッ化物塗布事業 (H15~H17 年度) でフッ化物塗布を受けた回数 (0~3 回) で 4 つの集団に分け、各集団の 3 歳児健診時のむし歯罹患状況を比較した。

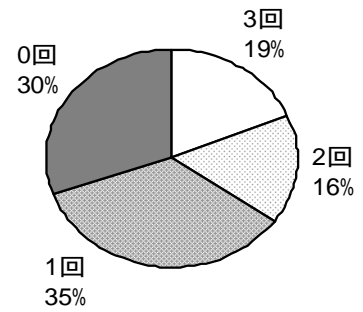
## 研究結果

### 1 対象者の分布

対象者の内訳を次頁の円グラフで示す。全ての受診券 (塗布補助 まで) を利用した対象者は全体の 19% (1,170 人) と少なく、更なる啓発が必要といえる。

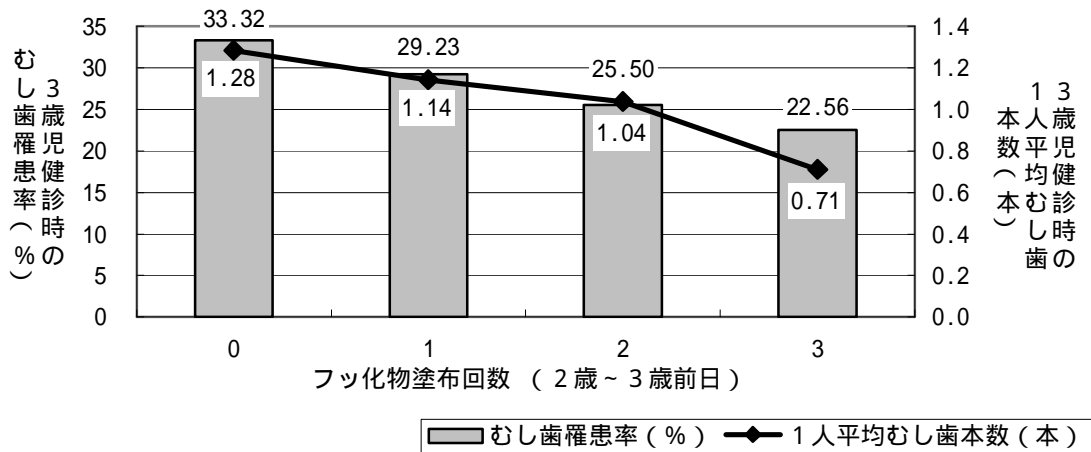
3回（2歳児健診時塗布＋塗布補助＋塗布補助）	： 1,170人（19%）
2回（2歳児健診時塗布＋塗布補助）	： 996人（16%）
1回（2歳児健診時塗布）	： 2,186人（35%）
0回（なし）	： 1,891人（30%）

<対象者の内訳>



## 2 3歳児健診時のむし歯罹患状況の比較

<フッ化物塗布回数と3歳児健診時のむし歯罹患状況>



フッ化物塗布回数が多いほど3歳児健診時のむし歯罹患率が低く、1人平均むし歯本数が少なかった（有意差あり）。特に1人平均むし歯本数は「0～2回」と「3回」の間で顕著な差が認められ、1年間にフッ化物塗布を3回行うとむし歯予防効果がより高くなることが分かった。

（注）今回の対象者は全員1歳6か月児健診時にフッ化物塗布を受けているので、1歳6か月児健診から3歳児健診までの塗布回数はどの集団も1回ずつ多くなる

### 考察

フッ化物利用はむし歯予防の1手段であり、今回の結果はフッ化物塗布の有効性および2歳児歯科健診・フッ化物塗布事業の効果を明確に示したものであり、3歳児健診時のむし歯罹患率の減少傾向の一因と考えられる。

今回の結果は本事業の実施場所である歯科医院に年に数回通院するという、歯の健康に対する意識の高さも反映した結果と考えられる。また歯磨きや糖分の適正摂取がむし歯予防に重要であることは言うまでもない。

### おわりに

本事業の周知PR手段として、個人通知以外に1歳6か月児健診時の案内、未受診者通知、歯科衛生士の訪問等を行い、受診勧奨及び継続受診の必要性についてPRに努めている。今後この結果を本事業の委託先である宮崎市郡東諸県郡歯科医師会との連携を深め、保護者への普及啓発に努めていきたい。